

III. 生物

15. 魚類

(記：松崎 慎一郎、野原 精一)

1. 魚類モニタリングの意義

魚類は、重要な内水面漁業資源であるだけでなく、湖の食物網の中で上位捕食者として重要な役割を担っている。近年、湖沼は様々な人間活動の影響を受けて、在来魚が減少、侵略的外来魚が増加するなど魚類相の変化が著しい。しかし、国内の湖沼において魚類の定量的なモニタリングが行われている例は少ない。今後、生物多様性の保全や湖沼生態系の管理を進める上で、魚類の長期的な変動をとらえるモニタリングは不可欠である。霞ヶ浦では、2005 年から魚類（エビ類等も含む）のモニタリングを開始し、以後、年に 5～6 回の頻度で継続している。

2. 調査定点

茨城県稲敷市古渡（西浦の西南）に定点を設けた。2017 年 3 月より、稲敷市堂崎鼻周辺に定点を変更した。

3. 採集方法

熟練した漁師に依頼し、沿岸域に定置網（張り網）を 24 時間設置し、魚類・エビ類などを採集した。使用した定置網は、誘導網（メッシュサイズは 1 辺 11mm）の長さが約 80m、翼網には魚が戻れない返し構造があり 3 つの袋網（直径 70cm、長さ約 6m、メッシュサイズは 1 辺 3mm）が接続している。前日に洗浄した定置網を用い、設置時には網の方向や設置場所が調査ごとに変わらないように留意した。

採集された捕獲された試料は、可能な限り種レベルにまで分類し、種ごとに個体数を計数した後、総湿重量を測定した。